会議議事録

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 令和元年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」Ⅰ．教職員の資質能力向上の推進　（ⅱ）教職員研修プログラムの構築事業 |
| 代表校 | 一般社団法人全国専門学校教育研究会 |

|  |  |
| --- | --- |
| 会議名 | 第6回学習評価研修WG |
| 開催日時 | 令和2年1月20日（月）14:00～17:00 |
| 場所 | リファレンス駅東ビル V-5 |
| 出席者 | 委員：岡村慎一、近藤賢宏、佐伯京子、植上一希、小田茜、佐藤昭宏事務局：飯塚正成オブザーバー：疋田、丹田（合計7名） |
| 議題等 | １. 基礎編＜全体＞・前回のオーダー：ノートの部分を充実させる。→注意事項は地の文で、セリフ等は『』で。・細かな表現は確認しているため、今回は大筋の内容を確認してもらう。→今週土曜日までに確認。・巻末の用語集については後日。・体裁について：スライドのみの教材は横型（受講者用）、ノート入りは縦型に（講師用）。・各委員10部ずつテキストを配布。＜内容＞・岡山研修ベースになっているスライドや個の情報（自己紹介等）が入っているものは変更する。・スライド内の表現（スライド28、2項目目）の変更。・スライド41、「多様な評価を意図的に組み込む」は、全く知らない人に意図（多様な評価を組み込んでいることが大事。しかしながら強みと弱みを意識ながら意図的に用いることが重要という意図）が伝わるのか。・受講するのは専門学校教員を想定しているため、「子ども」という表現を「学生」に変更。２.応用編＜全体＞・YIC 研修はグループ分けが学科等混在していたため、ワークがうまく進まなかった。また、シラバスがかなり作り込まれていたため、KBC研修での流れとは違い、講師側が混乱した。・応用編の説明書に、「研修の対象として学科ごとにグループ分けをすること、小規模で実施すること」を加える。また、事前の知識のチェックと研修を通して何が得られるのか、ということを明確に示すことが必要。→学校ごとのバランスがある。受講する側がどこまでできているのか。・応用編についても今週中に完成させる。＜内容＞・スライド24、到達目標と学習評価方法に絞る際の応用編の着地点が想像しづらい。→2・3（授業内容・構成・方法、適切な教材・課題の設定）については現場の教員はある程度できているという前提で、1・4（学習評価、到達目標の設定）に重点を置くという流れ。評価の可　視化が課題。　2・3時間目の内容を1時間目の内容よりも先に位置づけるべきなのでは。実習の評価が出発点であるため、混在している？　基礎編の最後に絶対評価について説明はある。「センス」とされるようなものの中にも認知能力として位置づくものがあるため、その区分けの話をして非認知能力の評価の話をする？となると、スライド26の切り分け方が大胆・曖昧なのでは。→ここを専門学校教員がどのように認識しているのか。あえて分けて議論してみるというやり方は意味があるのでは。→パッケージはできているため、今年度はこのままで着地する。2つに分ける。・スライド41、ルーブリック形式の評価を持っていることは教員が異動等で変わる際に評価の基準を引き継ぐためにもインターンシップ等で他の団体・機関と情報を共有する際にも活用できる、という説明を入れる。→スライド49にここに関する記述を入れる。３.今後・成果報告会はpptのみ。1月27日に基礎編pptとノート付きppt（植上・佐藤）、応用編ppt（植上・小田）を成果物として提出。→報告会ではpptに調査の結果について入れる。＜1月28日：事業推進会議＞・7日に向けた報告をおこなう。＜2月7日：成果報告会＞・20分程度？・成果報告の際にアンケートを出す。基礎編は一旦完結。応用編については実施内容・アンケート結果・アンケートを踏まえた次年度の展開を報告する。＜来年度＞・文科省としては教職員研修プログラムの構築の予算はあり、全専研に期待しているとのこと。来年度も引き続き、予算規模についてもこれまでと同様の予定。→今年度と同様に2つの事業を並行して実施する予定。 |

以上